

船岡町埋蔵文化財調査報告書第5集

鳥取県^{や ず ぐん ふな おか ちう}八頭郡船岡町

MAKINO

牧野遺跡発掘調査報告書2

新農村地域定住促進対策事業に伴う試掘調査

1992.3

船岡町教育委員会

牧野遺跡発掘調査報告書 2 正誤表

ページ 行

五 三

誤

7月11日

正

7月10日

序

このたび、船岡町大字西谷字牧野地内に新農村地域定住促進対策事業 仮称「竹林公園」が計画実施されることになりました。この付近は、昭和55年度に町営農村地域農業構造改善事業単地区集団農区総合整備事業が行われた際の発掘調査で遺物（土師器・須恵器などの破片）や遺構が見つかった関係もあり、埋蔵文化財包含の可能性が有るということで、鳥取県埋蔵文化財センターの指導を受けて平成3年5月7日より調査を実施いたしました。天候にはあまり恵まれませんでしたが、作業に当たっていただいた方々の積極的な協力もあって、大体予定どおり実施することができ、本書に記載のような結果を得て無事終了いたしました。

この間、終始適切な指導・助言をいただいた鳥取県埋蔵文化センター次長田中弘道氏及び文化財主事山橋雅美氏、また試掘作業にご尽力いただいた地元関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成4年3月6日

船岡町教育委員会教育長

西尾 精一郎

例 言

1. この報告書は、新農村地域定住促進対策事業 仮称「竹林公園」建設に伴って行った埋蔵文化財試掘調査の記録である。
2. 調査は、船岡町教育委員会が「牧野遺跡試掘調査」として、平成3年度国・県の補助を受け行った。
3. 期間は、平成3年5月7日から4年3月6日に終了した。
4. 調査の実施にあたっては、適宜県教育委員会文化課・埋蔵文化財センターの指導助言を得た。
5. 本書の作成は、県埋蔵文化財センター山耕文化財主事の協力を得て、小澤・中尾（船岡町教育委員会）が執筆編集した。
6. トレンチ分布図については、町産業課作製の1/500地図を使用した。遺跡地図については、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1を複製した「船岡町全図」の一部を使用した。
7. 本書に使用した方位は全て磁北を示す。
8. 遺物・図面・写真は町教育委員会で保管している。

調査体制

調査主体：船岡町教育委員会 教育長 西尾精一郎

調査担当：調査主任 小澤庄次（船岡町教育委員会）

事務局：船岡町教育委員会事務局

事務担当：中尾 敦（船岡町教育委員会）

調査指導：山耕雅美（鳥取県埋蔵文化財センター文化財主事）

調査協力：松下利秀・山形顕應・船岡町教育委員会職員

作業員：西村長寿・中尾暁明・岩成好子・中尾菊代

本文目次

序 文
例 言
調査体制
目 次

第1章 船岡町の位置及び遺跡周辺の歴史的環境	1
第2章 調査に至る経過及び遺跡の概要	3
第3章 発掘調査の結果	5
第4章 まとめ	7



挿図一 船岡町位置図



写真一 牧野遺跡全景（東上空より）

第2章 調査に至る経過及び遺跡の概要

第1節 調査に至る経過

この地域は、平成3年度着工予定の新農村地域定住促進対策事業 仮称「竹林公園」建設に伴い、平成2年船岡町産業課より町教育委員会に文化財保護に関する事前協議が出された。

牧野付近は周知の埋蔵文化財「牧野遺跡」が所在している。竹林公園建設予定地は、以前行った発掘調査地と隣接し、遺跡が埋蔵されていると考えられ、船岡町産業課、町教育委員会、鳥取県埋蔵文化財センターと協議を行った。

この結果、平成3年度国庫補助事業として、平成3年5月から7月にかけて試掘調査を行い遺跡の範囲と性格を確認し、工事との調整を図ることとなった。

第2節 牧野遺跡の概要

牧野遺跡は、昭和52年度実施した分布調査では古墳時代の遺物の散布地として確認されており、付近はゆるやかな斜面で生活に適し、住居の存在が予想された。

昭和54年度には、町営農村地域農業構造改善事業準地区集団農区総合整備事業予定区域（ほ場整備事業）となったため、トレンチ調査により遺跡の性格及び規模を明確にし保存を図るため調査が行われた。

この時の調査報告書によると牧野丘陵は、氷河時代（洪積世）に降下した火山噴出物におおわれ、現在では黄色や赤色の土として見え、表面に薄く黒色の土がかぶさっていることから、この丘陵地は古代人が外的や洪水等の災害から身を守るに最適な場所であり、泥湿ではなく、日当たりも良く住居に適したところと思われる。出土遺物には、数カ所のトレンチより弥生土器・土師器・須恵器の破片と若干の木炭・鉄器等として木棺墓が確認され、遺骨は頭骨と1本の鎖骨は判断したが、その他の骨については不明とされている。

以上、昭和54年度調査で判明した事は、7世紀前半の円墳と柱穴状遺構土壇墓、そして、木棺墓である。また、丘陵下位の谷底平野にも6～7世紀の土器片が確認され人々の住居空間は丘陵下位の谷底平野であったのではと考えられるが、当時の集落、経済基盤はどの程度の規模であったかなどは、はっきりしていない。



写真-2 調査地遠景 (北より)

第3章 発掘調査の結果

第1節 調査の経過

試掘調査は、平成3年5月7日から7月11日にかけて合計15本のトレンチを設定して調査を行った。

5月7日から3ヶ月の間で、全てのトレンチの掘り下げ、測量を行い調査面積は、212.66㎡を測る。



挿図-3 トレンチ分布図

第 2 節 各試掘トレンチ要項の概要

1 トレンチ

土師器の甕の破片等が出土した（P₀1～25）が計測不能なものがほとんどであった。P₀12・13・16・23を凶化した。

ピット及び土坑を検出した。

2・3 トレンチ

小石を含む土で、遺構・遺物とも検出できなかった。

4～9：12～15 トレンチ

遺構・遺物とも検出できなかった。

10 トレンチ

トレンチの中央に帯状の落ち込みを検出した。サブトレンチを設定し掘込み、断面を観察した結果、U字状におちこんだ重複する2つの古墳の周構と考えた。

近くに須恵器の甕・蓋坏の破片（P₀27～33）が散布している。従ってこの近くに古墳があると考えられる。

11 トレンチ

須恵器の破片（P₀26）が出土したが、遺構は検出できなかった。

参 考（昭和54年度の調査結果より）

A・B トレンチ

住居址を暗示するピット様遺構を確認したが、不十分ながら埋戻しと決定した。遺物は土鍋3、壺又甕9、平底型土器片4、等であったが、完形品はなく破片ばかりであった。

C・D トレンチ

測定可能な遺物はC₁、C₂トレンチで出土した壺、甕の2点であり、その他の破片も少数しか出土しなかった。

遺構らしきものは発見できない。

H・I トレンチ

遺構は未発見なれど、Hトレンチ西隅に現れた巨石の解釈は、巨石のすくない丘陵地であるだけに注意を要する。

遺物は多数出土したが、主に土師器片であり、少数の須恵器が出土している。又石刃、砥石、ミニ石斧角1点がある。

Eトレンチ

遺物は皆無。遺構として土壇状のものがあるが、詳細不明。このトレンチの表土は薄く遺構の土質も角礫岩であり、時期等不明。

Fトレンチ

西半部は基盤岩の丘陵頂部、東半部は埋積谷であった。この中央付近に土壇墓があり遺構内の土質は黒褐色を呈するが、基盤岩と同質の角礫岩であった。内部より平底型土器が出土し、土壇直上には須恵器壺が出土した。弥生土器と考える平底型土器片と、7世紀前期と考える須恵器壺との相関が問題となる。

東半部の埋積谷からも土器片が出土したが計測不能。

Gトレンチ

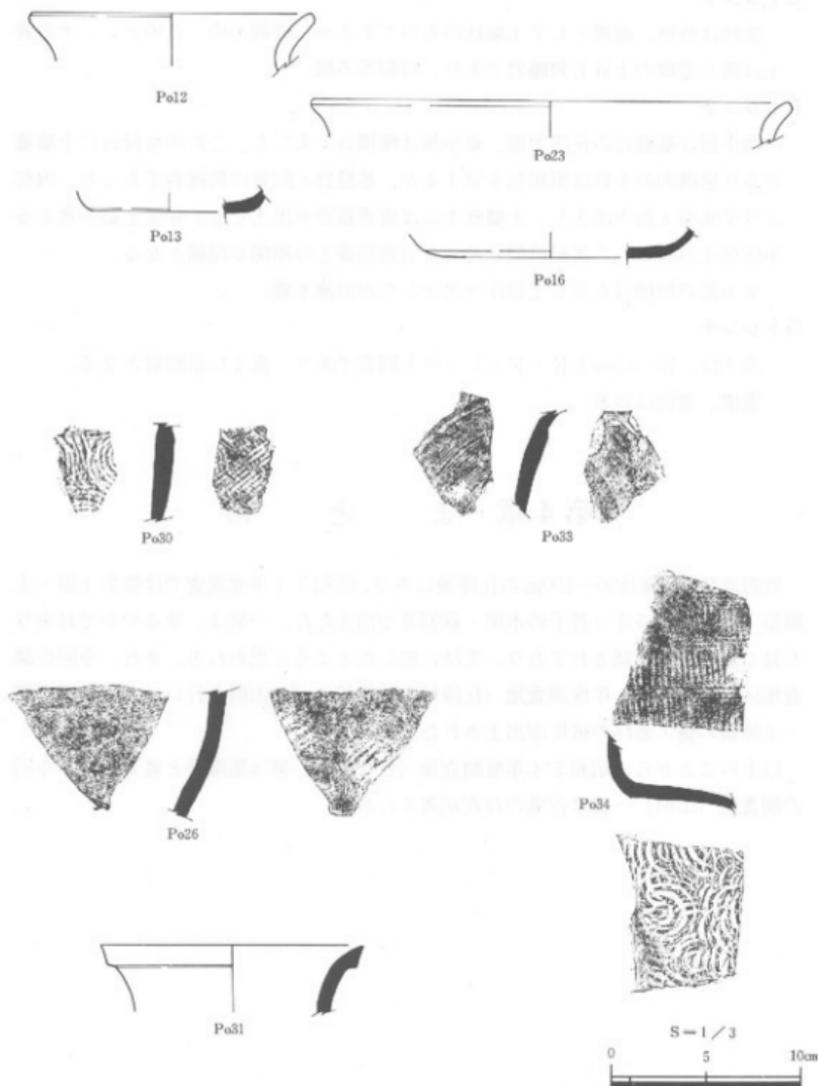
表土は、10～15cmとE・Fトレンチと同質であり、直ぐに基盤岩となる。

遺構、遺物は皆無。

第4章 ま と め

牧野遺跡は、海拔90～100mの丘陵地にあり、昭和54年度調査では弥生土器・土師器・須恵器の破片と若干の木炭・鉄器等が出土した。一帯は、ゆるやかで日当たりも良く住居址も確認されており、生活に適したところと思われる。また、今回の調査地区は、昭和54年度調査地（丘陵地）の隣接つづき山側を行い、少数の須恵器・土師器の甕・蓋坏の破片が出土された。

以上のことから、昭和54年度調査地（丘陵地）一帯は集落跡と考えられ、今回の調査地（山側）一帯は古墳の存在が考えられる。

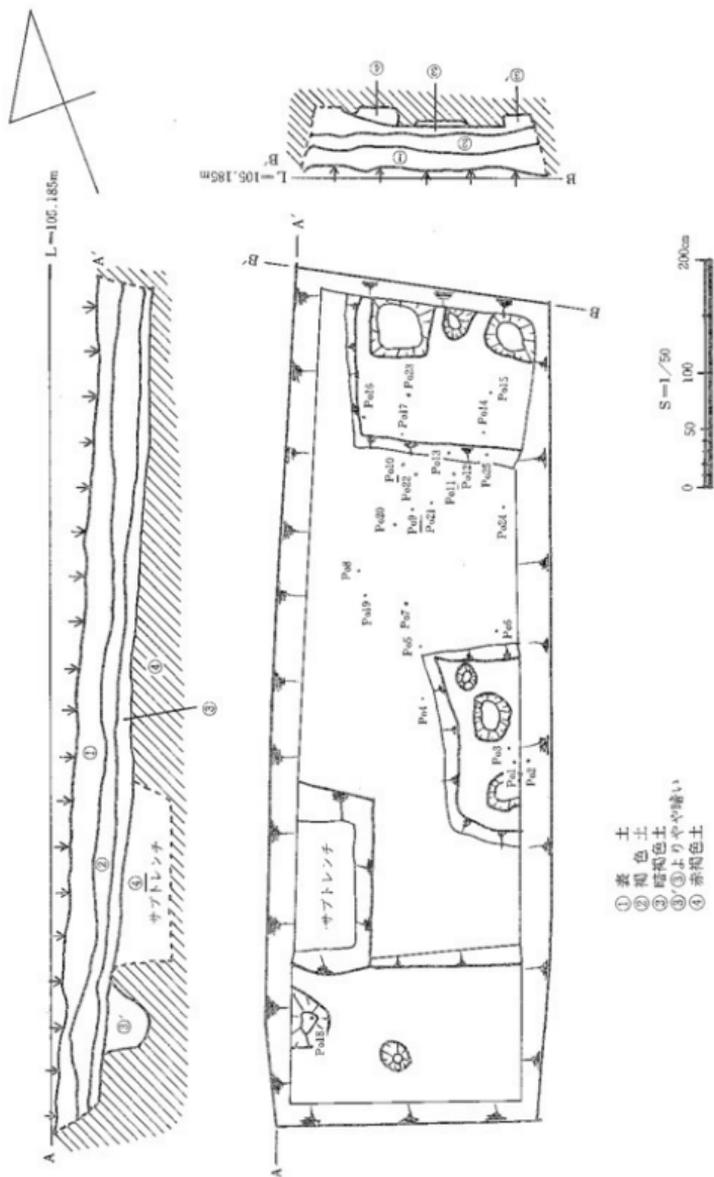


挿図—4 牧野遺跡土器実測図

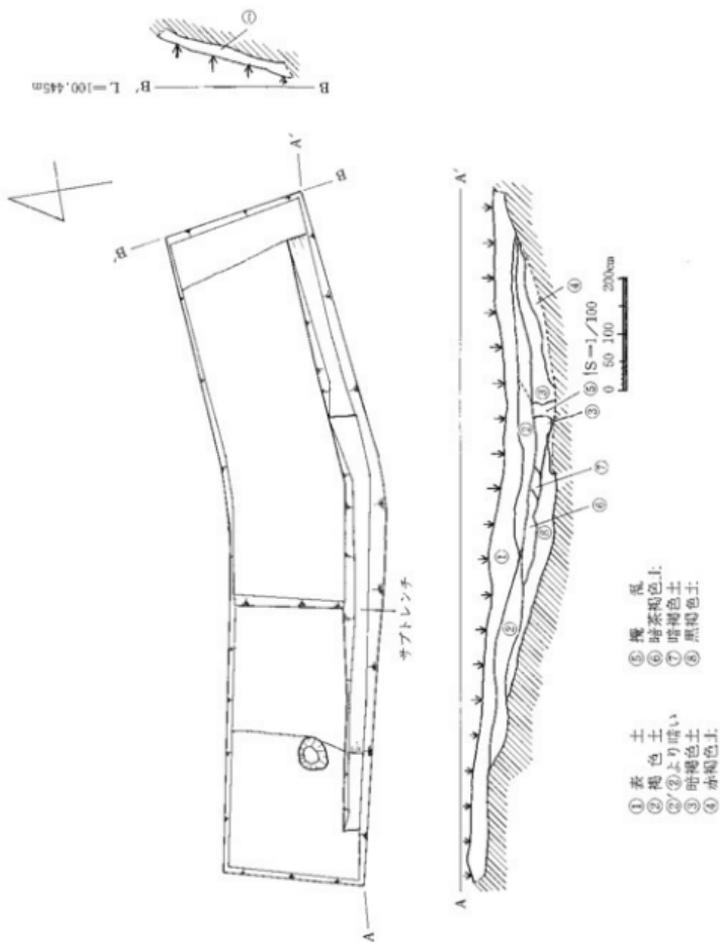
遺物 番号	器 種	法量 (cm)		形 態 の 特 徴	整 形 手 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	出土 トレンチ
		口 径	器 高						
Pa2	甕	14.7※	2.6 △	口縁部は外反し、端部は丸くおさめらる。胴部以下破損。丸い胴部へ続くと考えられる。	外面……ヨコナデ 内面……ヨコナデ後ハケメ	密 (細かな、砂粒を含む)	良好	茶褐色	1
Pa23	甕	24.3※	2.0 △	口縁部は外反し、端部は丸くおさめらる。胴部以下破損。	内外面……ヨコナデ	密 (細かな砂粒を含む)	良好	茶褐色	1
Pa3	須恵器 杯	底部径 11.5※	2.1 △	平底。	風化のため不明	緻密	不良	内外面乳白色	1
Pa6	須恵器 杯?	底部径 11.5※	1.3 △	平底。	内外面とも回転ナデ 底面回転未切り	緻密	不良	灰白色	1
Pa31	須恵器 壺?	13.6※	3.5 △	外反気味に外傾して立ち上がる複合口縁状を呈する。 口唇端は、引き出したように先細る。 口縁部下端は、わずかに外方へ突き出す。	内外面……回転ナデ	緻密	良好	内外暗青灰色	表探
Pa26	須恵器 ?			胴部の破片である。	外面……平行叩きの後ナデ 内面……ナデ調整している	緻密	良好	内外淡灰色	11
Pa30	須恵器 ?			胴部の破片と思われる。	外面……平行叩き文 内面……同心凹文	密 (径3mmの砂粒含む)	良好	外…淡青灰色 内…淡灰色	表探
Pa33	須恵器 壺 底 部			提振胴部の破片と思われる。	外面……カキ目 内面……回転ナデ	緻密	良好	内外淡灰色	表探
Pa34	須恵器 横瓶?			横瓶の肩の破片と思われる。	外面……平行叩き後カキ目 内面……同心凹文	緻密	良好	外…暗青灰色 内…淡青灰色	表探

※：復元した計測値 △：残存値

挿表-1 牧野遺跡出土土器観察表



挿図—5 第1トレンチ実測図



挿図-6 第10トレンチ実測図



第1トレンチ (南より)



第2トレンチ (北東より)



第3トレンチ (北西より)



第4トレンチ (北より)



第5トレンチ (西より)



第6トレンチ (南より)



第7トレンチ (東より)



第8トレンチ (南より)



第9トレンチ (北より)



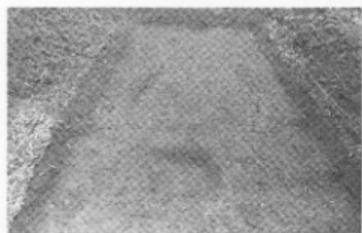
第10トレンチ (西より)



第11トレンチ (南より)



第12トレンチ (南東より)



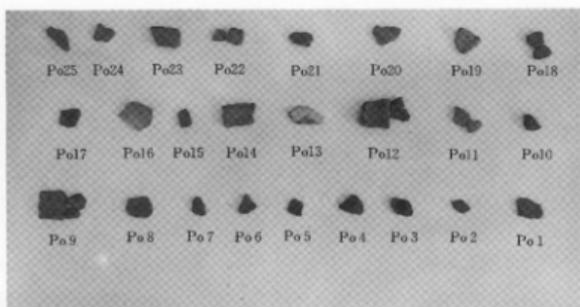
第13トレンチ (西より)



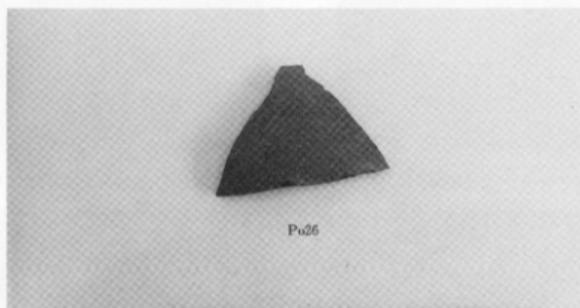
第14トレンチ (北より)



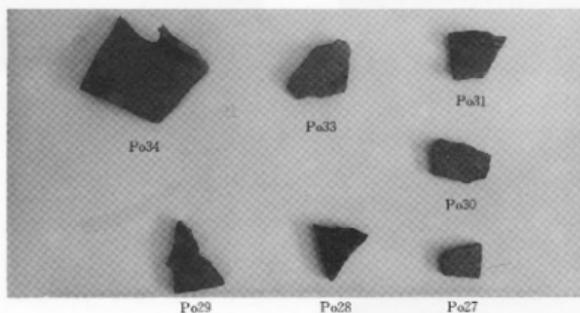
第15トレンチ (東より)



第1トレンチより出土した遺物



第11トレンチより出土した遺物



第10トレンチ近くで採取した須恵器片

船岡町教育委員会報告書 5

牧野遺跡 2

発行 1992・3

発行者 船岡町教育委員会

〒680-04 鳥取県八頭郡船岡町船岡539

TEL (0858) 72-0044 (代表)

印刷 第一印刷有限会社

〒680 鳥取県鳥取市田島441番地

TEL (0857) 22-0666